



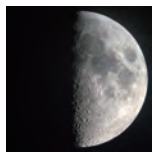
# 6月の月の満ち欠けと惑星について



下弦  
8日



新月  
15日



上弦  
22日



満月  
30日

## 6月の天体観望会で月が見える日時は？



6/20(土)・・・20時、21時がおすすめ



6/27(土)・・・20時、21時がおすすめ

水星：日没後、西のごく低空で見える（16日に東方最大離角）。【0.6等】

金星：日没後、西の空で見える。（宵の明星）。【-4.0等】

火星：夜明け前、東の低い空で見える。【約1.3等】

木星：日没後、西の低い空で見える。【約-1.8等】

土星：夜半過ぎ、東の空から昇ってくる。【約0.8等】

※各惑星の等級は中旬頃の明るさ（水星のみ16日の明るさ）。



## 身近な天文学

### 【6月21日は夏至の日】



図1: 夏至の日と冬至の日、太陽の南中付近で撮影した影の様子  
(写真左は2025年6月21日、写真右は2024年12月21日)

夏至は、一年のうちで昼の時間が最も長くなるころです。毎年6月21日ごろに夏至を迎えます。この日、太陽は一年で最も北寄りの通り道を進み、日本では南の空でとても高い位置までのぼります。そのため、太陽が真南にくる南中のころには、影が一年の中でも特に短くなります。

写真は、夏至の日と冬至の日に、太陽が南中するころに撮影した筆者の影の様子です。左の夏至の日は、太陽の高度が高いため、影は足元近くに短く見えます。一方、右の冬至の日は、太陽の高度が低いため、影は長くのびています。

ふだん何気なく見ている影も、太陽と地球の動きを教えてくれる身近な手がかりです。夏至のころには、ぜひ自分の影の長さにも注目してみてください。

## おすすめの観察対象

### 【ヘルクレス座の球状星団 M13】

6月の夜9時頃、空高い位置にはギリシャ神話の英雄「ヘルクレス座」が見え、この領域には球状星団（M13）と呼ばれる天体があります。空の暗いところであれば、小型の双眼鏡でもボォ〜と白っぽい塊として見つけることができます。当館の望遠鏡で観察すると一つ一つの星に細かく分解して見え、無数の星の集まりにため息が出るほどです。この星団は約10万個以上の星が直径約100光年の範囲に集まっており、大部分は100億歳に近い老齢な星だと考えられています。



図2: 四国最大の望遠鏡で撮影した M13  
(113cm, F9.7 + STX-16803E / LRGB 合成)